

## 地域医療の現場から



# 自治体病院として、 阿蘇地域の中核病院を目指して

阿蘇市国保阿蘇中央病院 院長 湯本 信也

### 病院の概要

- 設立年月：昭和 25 年 5 月
- 許可病床数：124 床（感染症 4 床）※ 休床 36 床
- 入院基本料：13 対 1
- 1 日の外来患者数：164 人
- 1 日の入院患者数：71 人
- 病床稼働率：84.5%
- 職員数：90 人（常勤医師 7 人、看護師 52 人、技師 18 人、事務 12 人、GRM1 人）



## 災害拠点病院としての役割

阿蘇市は、九州の中央地域に位置し「阿蘇くじゅう国立公園」内にあります。阿蘇山は今でも活発な活動をしており、その活動している火口を直接見ることができる国内でも有数の観光地です。この阿蘇山を取り巻く地域の阿蘇医療圏には、約 7 万人の人々が暮らしています。さらに年間を通じて外国人を含む多くの観光客（年間約 500 万人）が訪れています。しかし、阿蘇火山噴火による災害、地震による災害、台風等による豪雨災害など、災害はいつ襲ってくるかわかりません。このような状況にあることから、当院は災害拠点病院でもあり、その役割は重要であると思っております。

次に述べるとおり、当院は現在、新病院建設計画を進めているところですが、新病院では災害に対応できる病院（災害時の診療スペースの確保・ヘリ離発着場・建物は免震及び耐震構造等）を計画しています。

## 平成 26 年 2 月の移転・開院に向けて

現在の病院は、旧阿蘇町時代の昭和 25 年 5 月に開院して以来、増改築を重ね、最も古い外来診療棟は築 61 年を経過しています。建物は老朽化が進み施設全体が著しく傷んだ状況にあります。このことから平成 17 年の町村合併当初から病院経営改革を含めた病院建設計画が検討され、その後、県地域医療再生計画事業に沿って再生整備を進めています。

新病院の建設計画の概要について紹介します。

- ・ 場所 国道 57 号沿い旧阿蘇中学校跡地（敷地面積 28,165 m<sup>2</sup>）
- ・ 規模 病床数 124 床（一般病床 120 床、感染症 4 床）
- ・ 建築面積 述べ床面積 10,840 m<sup>2</sup>（病棟は 2 階、3 階、4 階）
- ・ 診療科目 内科、外科、整形外科、脳神経外科、循環器科、小児科、リハビリテーション科、皮膚科、麻酔科の 9 診療科
- ・ 建物の構造 鉄筋コンクリート一部 4 階建、免震と耐震構造の併用
- ・ 高度医療機器の導入 MRI、CT、アンギオ装置（血管造影）等
- ・ 医療機能の強化 二次医療機関として、脳血管・心疾患等救急医療に対応できる

- 医療機能の充実強化
- ・ その他の施設 医師住宅 6 戸、ヘリ離発着場、リハビリ庭園
- ・ 建設スケジュール 平成 24 年 9 月本体工事着工、平成 26 年 2 月新病院開院予定



新病院の模型(左)とパース(右)

## 阿蘇の自然環境を活かした新病院建設

阿蘇市は、噴火口のある中岳火口丘以外でも多くの自然景勝地（米塚・大観峰等外輪山）や歴史文化施設（阿蘇神社・西巖殿寺・中通古墳群等）、自然植物自生地（阿蘇の草原・スズラン自生地・サクラソウの群生地・ミヤマキリシマの群生地等）があります。

このような自然や文化遺産を後世に残すため阿蘇市はさまざまな取り組みをしています。その一つとして世界ジオパーク登録（日本ジオパークは平成 20 年 11 月登録済み）や世界文化遺産登録を目指しています。この取り組みは、阿蘇の自然を守りながら、多くの人たちに阿蘇を訪れてもらい、その素晴らしさを満喫し心を癒していただくというものです。

新病院は、このような自然環境の中で、阿蘇駅近くの国道 57 号沿いに位置し、特に病棟からは阿蘇五岳や外輪山が眺望できるデザインや外観に配慮して建設します。



希少植物の  
ヤツシロソウ



阿蘇の夏景色。五岳はお釈迦様が横たわる涅槃像に例えられている

## 地域医療連携の充実を目指して

阿蘇医療圏において、地域医療連携は最も重要な取り組みです。このことは熊本県地域医療再生計画（阿蘇編）でも取り上げられ、さまざまな活動を展開しているところです。その一つに、阿蘇地域医療再生推進会議の下に組織された作業部会（阿蘇医療圏の医師・医療安全管理者・看護師・MSW・消防署・保健所の関係者 14 名で構成）が中心となって、地域医療連携の推進の検討を行っています。

昨年度の取り組みとして、阿蘇地域における救急搬送・救急医療の現状の講演会や地域医療連携に関する講演会等を、圏域の医療関係者を対象として開催してまいりました。

また、連携に関した地域医療再生計画事業として、阿蘇郡市医師会が事業主体の「休日・夜間等初期救急支援事業」がありますが、これは昨年度から阿蘇中央病院の初期救急センターで、郡市医師会の先生方に協力医師として診療支援にあたっている事業です。

平成 25 年度までの新病院の整備とさまざまな事業を通して、医療は阿蘇地域でほぼ完結できる体制づくりを目指してまいります。



地域連携に関する講演会。昨年度は荒尾市市民病院の大嶋壽海院長を講師に迎えて開催した